

G 文 明 世 界 化 的 青 春 年 代 的 文 学 创 造 与 文 学 批 评 的 发 展 与 变 化

(四) 中國經濟通史綱要(中冊) 朱寰、劉振鐸撰 商務印書館 1997年 320頁 3.50元 32開 9579字 1997年12月第1版第1次印刷

生涯教育(G1)に関しては、青少年問題を生涯学習の観点からとらえた文献が注目される。神奈川県では、生涯学習推進の広い観点から学校教育の取り組みを含めて、県が独自に全国レベルで事例を収集して取りまとめた資料を、滋賀県では、他の世代の生涯にわたる学習や成長にかかわる事例と青少年健全育成の事例とを統合的にとらえた資料を、それぞれ発行している。また、西村美東士「生涯学習かぐろん」は、現代社会の情報化、パソコン・パソコン通信等のハイテク化、人間の主体性の喪失などの状況の中で、現代青年の知的活動の特徴とその援助の在り方を示している。日本青年館青年問題研究所「生涯学習と青年期教育」は、青年の主体形成のための生涯学習の重要性を指摘した上で、共同学習の再評価、青年期教育から生涯見直し学習、生涯見渡し学習、生涯見通し学習への発展などを提唱している。日本青年奉仕協会「ゆたかな学びの世界」は、生涯学習社会において、ボランティア活動を通じて豊かな心をめぐむ個性的な学習を自ら行うことの重要性を訴えている。

社会教育(G2)に関しては、昨年度に引き続き、船などを利用した「旅」による教育プログラムや「フロンティア・アドベンチャー事業」に関する各地の実

実践報告が目立っている。後者の事業の本年度の特徴としては、それぞれの実践がより個性的になっている。例えば、山口県の「原始に生きる防長っ子キャンプ」では、自己理解、他者理解、環境理解を深め、対人関係におけるコミュニケーションと協力関係を強化するための指導法を伴う米国OBS（アウトワードバウンド・スクール）のプログラムを展開している。

青年の家、少年自然の家については、単年度の事業報告にとどまらない根本的な問いかけを行う文献が見られた。全国青年の家協議会「青年の家の現状と課題第20集」は、「魅力ある青年の家をめざして」をテーマとして、カウンセリングなどの他分野の研究から、現代青年のニーズに対応する運営の在り方について考察し、さらに国立妙高少年自然の家所長から、青年の家の運営に対する少年自然の家創設の視点からの提案を受けている。国立オリンピック記念青少年総合センターは、国・法人・民間機関で刊行された様々な関係資料を「青少年教育データブック」として一冊に編集している。国立那須甲子少年自然の家は、設置20周年記念を契機に、少年自然の家の理念と構想、少年自然の家構想の具現化などを改めて検討した「自然と子ども」を、国立花山少年自然の家は、先導的な事業に意欲的に取り組んできた歴史を欠落させずに実践的にまとめるため、通常の収録のほかに創設期の記録固めの意味を加えて「しゃくなげ」を、それぞれ発行している。

社会教育の観点から学校週5日制の意義をとらえた文献としては、西村美東士「社会教育の新しい展開からみた学校週5日制」を収録した。これは、教師、親、大人たちが、マニュアルやひな型を与えられてから動き出すという今までの自己の非主体的な枠組みを自ら乗り越え、5日制を契機として、教育・学習主体としての本来の自己を取り戻すよう提唱したものである。

指導者(G5)に関しては、「生涯学習ボランティア活動総合推進事業」に関するものが多かったが、そのほか、秋田県青少年団体連絡協議会「あすの秋田を拓く青年団体リーダー研修資料」では、町づくりイベントの視点が、神奈川県青少年指導者養成協議会「かながわの青少年指導者養成の新たな展開をめざして」では、高齢者までを含めた異世代交流、生涯学習、情報活用、国際社会、多元社会、技術革新、余暇時間増大の視点が、指導者養成の視点として重視さ

れている。

団体活動(G6)に関しては、「ピラミッド型よりもアメンバー型を好む青年」の新しいニーズに対応する青少年団体の在り方を模索する「生涯学習時代を担う日本青年館セミナー報告書」,「未来都市創造のために青年の声を地域社会に反映させよう」と訴える「日本都市青年会議広島大会報告書」などの団体自身の発行資料のほか、田中治彦によるボーイスカウト運動の歴史に関する実証的研究が注目される。

国際交流(G7)に関しては、各自治体が行う青年海外派遣事業のほか、民間団体の機動力をいかした事業が注目される。神奈川県青少年協会「海外派遣団」では、タイで植林活動が、ガールスカウト日本連盟「開発教育プロジェクト」では、ネパールで簡易水道に水栓をつける事業が、新潟国際ボランティアセンター「スタディーツアー」では、タイのカンボジア国境やカオイダン難民キャンプでの活動などが行われている。

(担当 西村美東土)